

## 第26回参議院議員選挙必勝決議

令和時代が始まって早々、日本、そして世界では、新型コロナウイルスの感染拡大によってこれまでの生活や働き方が大きく変化した。

新型コロナウイルスは、私たちが働く介護業界にも大きな影響をもたらしていることは言うまでもない。感染した際の重篤化リスクが高いとされる高齢者がサービス対象者であるということから、介護従事者自らも自粛・自制する生活が続いており、「感染するのではないか」「感染させるのではないか」という不安と闘いながら、日々業務に従事している。

そのような中、国は、2021年度からの介護報酬改定率を0.70%引き上げた。大幅な報酬アップはなされなかったことに加え、介護従事者の処遇改善に直結する内容がなかったことについては、残念な改定であったと言わざるを得ない。

このままでは、介護人材の不足は解消されることはなく、その結果、必要なサービスを受けることができない「介護難民」や、家族を介護するための「介護離職」の増加、そして「介護保険制度の存続」さえ危ぶまれることは明白である。

私たちは、組合員が「安心・安定」して働き続け、家族とともに「ゆとり」をもって「豊か」に生活できる社会の構築を目指している。そのためには、介護現場の「声」を届ける代弁者を国政に送り出し、日々の生活や介護業界に対する私たちの考え、すなわち、私たちの「政策」を政治の場において実現していくことが不可欠である。

2022年7月、第26回参議院議員選挙が行われる。

私たちはこの選挙に再び「かわいたかのり」を擁立し、闘う。

私たちと「かわいたかのり」は、協働して高齢社会への確かな対応のため、「介護従事者の処遇改善と社会的地位の向上」そして「介護業界の更なる発展」に取り組む。そのためにも、「かわいたかのり」を是が非でも国政の場へ送り出さなければならない。

この闘いで勝利するには、組合員一人ひとりが「私たちの声の代弁者」を政治の場へ送り出す大切さを共有し、その力を結集して「かわいたかのり」に運動のたすきをつなぐことができるか、その一点にかかっている。

今こそ、NCCUの全組合員が一丸となり、持てる力を余すことなく出し尽くし、総力を挙げて「かわいたかのり」の必勝に向け最後まで闘い抜くことをここに誓い合おう。

以上、決議する。

2021年10月9日  
UAゼンセン日本介護クラフトユニオン  
第23回定期大会